



TOKYO 2020



TOKYO 2020  
PARALYMPIC GAMES

HOST VENUE

# 東京2020大会 神奈川県記録集

A Record of Kanagawa Prefecture: Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020



# 東京2020大会 神奈川県記録集

A Record of Kanagawa Prefecture:  
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020

# 東京2020大会 神奈川県記録集

A Record of Kanagawa Prefecture:Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020

5	ごあいさつ		
6	カラーグラビア／PLAYBACK TOKYO 2020		
30	東京2020大会 神奈川県の取組概要		
32	序章 東京2020大会開催に向けた設計図づくり		
33	第1章 セーリング		
34	第1節 江の島会場決定経緯	36	第2節 セーリング競技会場の準備に着手
38	第3節 江の島会場の課題とその解決	52	第4節 役割分担・費用負担(大枠合意)
55	第5節 会場整備(恒久施設等)	64	第6節 大会史上初の1年延期
71	第7節 セーリング村でのおもてなし	73	第8節 セーリングの記憶を未来へ
77	第2章 事前キャンプ		
78	第1節 「オール神奈川」で臨んだ事前キャンプ誘致		
84	第2節 コロナ禍での事前キャンプ		
93	第3章 聖火リレー		
94	第1節 オリンピック聖火		
109	第2節 パラリンピック聖火		
115	第4章 パラリンピック		
116	第1節 パラリンピック成功は神奈川県の願い		
117	第2節 かながわパラスポーツ推進宣言		
121	第3節 ポルトガルパラリンピックチームの事前キャンプを通じて		
125	第5章 機運醸成		
126	第1節 大会前の機運醸成イベント	129	第2節 セーリングの普及に向けて
136	第3節 県民参画に向けた取組	139	第4節 街並みの歓迎ムードを演出
144	第5節 広がる取組	146	第6節 オリンピック・パラリンピック教育の推進
149	第7節 文化プログラム	150	第8節 コロナ禍での機運醸成
159	第6章 安全・安心な大会		
160	第1節 組織委員会等の新型コロナウイルス感染症対策方針		
162	第2節 新型コロナウイルス感染症対策に関する東京2020大会協議会		
166	第3節 大会期間中の情報連携体制		
167	第7章 大会を終えて		
168	神奈川からARIGATO		
174	神奈川県ゆかりの代表選手一覧		
176	用語集		
177	あとがき		
178	オリンピック・パラリンピック所管部局・職員数の変遷		
179	東京2020大会関連予算の推移		
180	東京2020大会のあゆみ		
		Athletes Interview	
		75	岡田奎樹×外園潤平
		76	吉田愛×吉岡美帆
		91	高藤直寿
		92	町田瑠唯×宮澤夕貴×オコエ桃仁花
		114	都筑有夢路
		123	米岡聡
		124	伊藤慎紀
		158	欠端瑛子
		171	山田恵里
		172	富田宇宙
		173	鳥海連志×古澤拓也

※用語集に記載のあるものは、本文中では略称を使用している

表紙写真：ロイター/アフロ（セーリング女子、自転車男子）、新華社/アフロ（野球、ソフトボール）、鶴来雅宏/アフロ（自転車女子）、森田直樹/アフロスポーツ（サッカー女子）、ムツ・カワモリ/アフロ（サッカー男子）、Kaoru Soehata/アフロ（セーリング男子）

## ごあいさつ



神奈川県知事  
黒岩祐治

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期され、無観客、緊急事態宣言下での開催など、異例づくめの大会となりましたが、県内では、セーリング、サッカー、野球・ソフトボール、自転車競技ロードレースの4競技が開催され、成功のうちに幕を閉じました。

中でも、江の島で2度目のオリンピック開催となったセーリングは、湘南港の艇の所有者や漁業関係者、地元の皆様のご協力により滞りなく競技が実施されるとともに、レース映像を通じて江の島の美しい海を全世界にアピールできたものと思います。また、大会関係者からは、素晴らしい会場であるとお褒めの言葉をいただき、大変誇りに感じています。大会の開催に当たりご尽力いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

一方、コロナの影響で多くの取組が中止を余儀なくされたことは残念でしたが、公道走行に代えて実施したオリンピック聖火リレーの点火セレモニーでは、参加ランナーのあふれる笑顔で希望の火をつなぐことができました。また、パラリンピック聖火フェスティバルでは、全市町村で採火した火を一つにし、「ともに生きる社会かながわの火」として東京へ送り出すことができました。

さらに、事前キャンプでは、約1,300人もの海外選手団を県内に迎え、感染症対策に配慮した練習見学やリモート交流などを行ったほか、ライブサイトなど人が集まる機運醸成ができない中、SNS等を活用した新たなスポーツ観戦の方法を提案できました。

また、パラリンピックは県内での競技はありませんでしたが、大きな盛り上がりを見せ、「多様性と調和」という大会コンセプトとともに共生社会の実現に向けた意識も大いに高まったものと思います。

そして、何より大会成功の鍵は、コロナ禍での安全・安心な開催でした。

そのため、県の提案により、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や医療関係者等と協議会を設置して感染症対策の徹底に向けた議論を重ね、感染者が発生した場合、本県の医療提供体制である「神奈川モデル」での受入体制を整えるなど準備を進めた結果、県内に滞在した海外選手団等から1人の感染者も出さず大会を終えることができました。

今大会は、コロナ禍においても万全な感染症対策により、安全・安心に開催された大会として、必ずや全世界の人々の記憶に残ることと思います。

県としては、今後、大会の成功を誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりに生かすとともに、共生社会の実現につなげ、大会のレガシーとして継承してまいります。

最後になりますが、改めまして大会の開催にかかわっていただいたすべての皆様にお礼申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、私のあいさつといたします。